（別紙4）　令和　4　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】（2ユニット／3階ユニット）

事業所番号	2790900456		
法人名	社会福祉法人　大潤会		
事業所名	大冠カームグループホーム		
所在地	高槻市須賀町65番10号		
自己評価作成日	令和5年3月20日	評価結果市町村受理日	令和5年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町２－１－８　FGビル大阪　4階
訪問調査日	令和5年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「ここで良かったと思える住まい」を目指し、施設だからこそ提供できる支援を意識して、サービス提供に努めています。大潤会グループ内の医師、歯科、リハビリ科との連携によって医療提供を行い、体調の変化に素早く対応できる体制に取り組み続けています。
新型コロナウィルス感染対策の中、家族様の面会が滞り、心配な思いもされる日常でしたが、ご入居者、家族様のご理解とご協力のもと、日々のご様子を迅速にお知らせし、コミュニケーションに努めています。
加齢に伴い、身体状況の変化、認知症の進行に対し向き合い、不自由さや不安がない、ご自宅と同様にくつろげる居場所づくりを意識して、今、できることを迅速に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	感染予防対策が第一優先される近年、朝礼での理念唱和を控える期間も続きましたが、施設長はじめ役職者による啓発を行い、共有に努めています。また、理念にそって実践する、取り組む意識付けを継続しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在の所、感染対策から、ボランティア活動等、施設へのご来所は中止している。 今年度、地域の小学校4年生の課題授業にリモート参加し交流する時間がありました。今後は施設来所も依頼し、直接触れ合っていただける機会も考えています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策から訪問の中止が続き、集いの場として活用できていないが、高齢者の介護や感染予防方法等、小学校や老人クラブの集まりに出向き、お時間を頂戴し講座に取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年2月より、会議を再開している。写真資料を作成し配布、日々の取り組みを報告させていただいている。会議内で、日頃の思い、ご意見をいただき、改めて意識した形で、サービスの向上につながっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所で問題が発生した場合や発生しそうな段階等、福祉指導課の担当者と密に連絡をとり経緯説明を行い、情報や資料を公開し助言を得るなどして連携している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットの出入口の施錠については、安全面から解除できない現状である。 身体拘束については、e-ランニングの研修を取り入れ、全職員が視聴し、繰り返し確認できる方法で、適切な知識、正しい理解につなげている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	所属長中心に発生している事例を確認し、発生しやすい状況の心理、場面を学び注意している。また、各職員へ伝達し適切なケアができる意識の指導に努め防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方はいませんが、必要時に適切に対応できるよう、関係者に確認できる、助言を得れる体制である。学ぶ時間作りは充分でないため、留意していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書・重要事項の説明を丁寧に行い、個々の立場に立ち、不明点や不安がないよう配慮している。また、状況の変化や法の改正、日々の利用についての疑問質問は随時受付、その都度真摯に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	時間制限がある中ですが、面会が再開し、ご家族とお会いする日常に戻りつつあります。介護職員はご様子の近況を伝えコミュニケーションに努めています。ケアマネージャーは相談に徹し、要望の反映に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の運営会議で情報を共有し、報告書面の通読伝達を行い全体に周知している。 気になる点など、職員の声に対し返答・傾聴を行っている。施設長への報連相を行い反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望や家庭の諸事情を考慮しながら、シフトの作成に努め、モチベーションの維持向上ができる環境整備を意識している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は人員不足による日常勤務の影響があるため参加できていない傾向だが、考課表にそって、個々の力量を把握し、前進、スキルアップへの働きかけ指導は行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高槻市事業者協議会や老人施設部会に入会・参加し、他事業所との関わり、ネットワークづくりに努めている。 日頃、生じていることや取り組みを情報共有し、質の改善、向上を意識している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	異動による介護職員の移り変わりがあるが、どんな状況でも、その方の持病や生活スタイル、趣味などを共有した上で、安心していただける関係づくりを意識し、不安がないように対応させていただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	支援部を主体とし、まず、ケアマネージャーや施設相談員が要望に耳を傾け関係作りに努めている。その中で、要望や困りごと、不安な点を介護職員と連携し、関係の構築を意識している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要としている支援は、経営理念にもある『迅速な対応』を最優先に確認し対応させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を持って対応することを基本に、笑顔で接し笑顔をもらえるようケアに努めている。また、目配り・手配り・心配りを意識し、信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況を伝えるだけでなく、必要なことの共有をし、本人と過ごす時間を作っていただきながら、共に支えていける関係を意識し支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策緩和に伴い、まだ飲食は中止だが近隣への外出はできるようになっている。ご都合に合わせ、声かけ行い支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性、性格などを配慮しながら、テーブル席の配席を考慮し、レクリエーションの交流の際は、職員が間に入り会話につなげたり、関わりを持ち親交につなげている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人様やご家族の必要性に応じて、相談、支援ができる意識や体制に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用年数の経過や加齢に伴い、体調の変化、衰えが進む中、上手く思いを伝えられない時でも、お聞きしている思いや意向は常に共有を続け、職員間で把握する量に差がないように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々それぞれに、本人様から伺う情報を聞き逃さず、今までの暮らしぶりを教えていただける関係づくりを意識し、把握に努めている。また、プライバシーに配慮しながら情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	複数の職員のケア記録や日々の観察を通した気付き、変化に気を配りながら把握に努めている。眠りスキャンの導入により睡眠状況の把握、目配りもできるようになっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週1回サービス担当者会議を開催し、計画作成担当者と現場職員にて、現状の課題について話し合っている。また、それぞれの職種が留意することも共有に努め、計画作成につなげている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、各部署が共有できる介護ソフトを活用している。気付き、その時の手配りなど情報を共有し、ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なことを迅速に支援し、臨機応変な対応を心がけている。今、できることを考え、選択肢を増やせるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暮らしを楽しむ支援を意識し、室内での取り組みに努めている。外出を控えている中、ご家族と一緒に買い物ができるイベントを室内で開催し楽しんでもらう機会も作らせていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望者には同法人の往診・受診を受けていただき、以前からのかかりつけ医を希望される場合は、情報の提供や受診の付き添いなどを支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の関わりの中、入居者様の様子の変化・気付いたことは、施設内の看護師と共有し、毎日連携をとっている。素早い医療処置を行えるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は迅速な情報提供を心がけている。病院側も感染対策下にて、入院中の面会の自粛を伝える中でもあり、不安になられないように、認知症状や日頃の過ごし方も踏まえ、情報伝達、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応については、入居契約時に話し、いくつかの選択肢を提示している。また、入居後も相談を行っている。その方にあった支援、できることを適時、説明できるように情報共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染対策下にて、集まった訓練の実施は不充分な経過だが、e-ランニングの視聴や所属長よりの指導を行い、緊急時に備えた対応、実践ができるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、防災訓練を実施し、事務所や部署にも掲示物を設置し、全職員が災害時の対応を迅速に行えるよう意識している。また、震災時訓練、水害訓練、不審者侵入時訓練も実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧語を基本とし、温かい介護を意識している。その方を尊重し個人情報に関わる職務であることを意識した言葉がけに努めている。使う言葉の改善は常に意識し上長より啓発を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉以外に表情や日々の行動の変化など察しながら希望や思いを把握・確認し、ケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お1人お1人のペースに寄り添い、安全配慮をした上で、その日をどのように過ごしたいか、過ごされるか考慮、見守りし支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら気に留めなくなった方や行うことが難しくなった方へ、声かけを行い個々の支援にあたっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットキッチンで毎食、食事の盛り付けを継続しながら、食べやすい工夫と提供温度に気をつけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時々の体調に応じ、食べる時間を配慮している。また、好きな飲み物を提供できるように準備したり、嗜好品の手配に努め、美味しく口にしていただけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行うことが難しくなった方へは歯科に相談しながら、ケアの工夫に努めている。また、自身の習慣がありながらも、必要品の管理が難しくなった方へは、歯ブラシやコップ類をお預かりし、本人様のタイミングで手配りできるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が減り、快適に過ごしていただけるよう、トイレケアを中心に支援している。また、排泄アイテムの種類を変更したり、日々の観察で排泄パターンを把握し、必要なケアに努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせ、腹部の保温、飲み物の温度調整やヨーグルト、バナナなどの提供を取り入れ、便秘の改善に努めている。、		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	提供にあたっては混乱がないように、曜日を固定した提供を継続している。 リフレッシュや楽しみにつなげている。また、気分がすぐれない時には、時間調整に努め支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のタイミングで、入眠していただけるよう気配りしている。安眠に留意し、寝つきの様子を観察して、その時々の心情も確認しながらケアにあたっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と連携しながら、薬の目的や副作用・用法・用量について、薬局からの情報書類の確認を行い、理解に努めている。また、看護師の指示のもと、様子の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何かに取り組んでいただける日常を意識し、話しかけ、働きかけに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーへの外出は可能になったが、外出支援は、感染対策緩和以降になる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設としては事務所での預り金管理対応し、必要時は、ご家族に確認をとりながら、引き出す対応をとっている。希望がある場合は本人様、ご家族と相談の上、所持していただけるように支援にあたる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	どのような時でもサポートが必要であり、希望にそって、やりとりしていただけるように迅速な対応に努め、支援にあたっている。家族様への知らせも第一に留意している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の視点を大切に、変わらない空間を維持し、どの方も、安心してゆっくり過ごしていただけるように、飾りは控えめに音や温度、光などに注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係に配慮したテーブルの設置、配席を続けている。また、くつろいでいただけるようにリクライニングソファーを設置、気分に合わせて使用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた場所となるように、個々に合わせ、物の置き方を工夫したり、レイアウトの調整に努めて配慮させていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	だんだん自信がなくなられ、控えて遠慮されることでも、声かけの工夫をしながら、できる支援に努め、安全の確認を行っている。		